



公益社団法人 神奈川県助産師会主催

2024 年度神奈川県周産期医療従事看護職員資質向上研修委託

災害 オンライン研修 ＜CLoCMiP[®]レベルⅢ認証申請要件の選択研修＞



日時:2025 年 2 月 22 日(土)

1. 自然災害その時にむけてどう備える？助産師に求められること～

講師：倉澤 健太郎 氏

(横浜市立市民病院産婦人科 科長・部長／母子医療センター長 横浜市立大学大学院 客員教授)

2. 震災時における産科病棟の現状と今後に向けて

講師：高本 一枝 氏 (恵寿総合病院 産婦人科師長)

3. 令和6年度能登半島地震における周産期医療危機への対応

～機能不全に陥った医療環境を支えた人道支援～

講師：新井 隆成 氏 (恵寿総合病院 産婦人科科長)

参加者 当日:45名(会員15名、非会員30名) 後日オンデマンド配信実施

【主催者側から】

倉澤先生からは、災害対応に関連する組織構造や災害時小児周産期リエゾンの役割をわかりやすく説明いただきました。助産師それぞれが被災時の情報経路を今一度確認しておく必要があると感じました。

高本先生からは、令和6年能登半島地震の発災直後、平時から準備していたアクションカードやマニュアルが活用されたことや、妊婦の安否確認がSNSでスムーズに行われたこととお話しいただき、災害時に母子の心身を守るためには平時からの準備が重要と改めて感じました。

新井先生からは動画や映像を交えて能登半島地震の現場では何がおこなっていたのか、「STEP」や「CSCATTT」に沿ってお話しいただきました。母子は安心した環境を求めて移動していくということが印象的で、被災地だけでなく、全国各地の移動先でも助産師の温かな支援が求められていると感じました。

今回は神奈川県内のみならず全国から83名の参加がありました。講義を通しての学びが各施設での平時からの備えに繋がればと思います。